

「魂の津波」
“Tsunami of the Soul”
マタイによる福音書 4章 1～11節

聖学院大学 人文学部チャプレン エバート・D・オズバーン

テーマ：「魂の津波」とは私たちの人生において、神御自身の目的を成就されるために働かれる触媒なのです。

私たちは皆それぞれの人生の中で、あらゆる時に大きな問題にぶつかります。私はこれらの試練を人生の嵐と呼びたいと思います。そして時には、私たちは、克服できないと思われるほどの問題や困難に出会います。それらの嵐、つまり、家族、友人、仕事、学校での問題、あるいは自己不信や寂しさなどの個人内面的問題に私たちはたやすく圧倒されやすい者です。問題が何であれ、困難・苦難は、私たちを時に圧倒し参らせてしまうものかもしれません。ですから、私はこれを“魂の津波”と呼びます。

この“魂の津波”から生き残るための魔法の処方はどこにもありません。けれども、苦難の時に助けとなる、覚えておくべき実践的な指針がいくつかあると思います。それは：

- 1) 強い信仰をもつこと。
- 2) 自分の力ではなく主に依り頼むこと。つまり、純粋な祈りをもって神を求めること。
- 3) 神の御言葉・聖書を求め、従うこと。
- 4) 神に感謝をささげること。
- 5) 決してあきらめないこと。

そして、これらのすべての土台は、第一の指針“強い信仰を持つこと”にあります。

ヘブライ人への手紙11:1、そして11:6に、信仰をこう定義しています。“信仰とは、望んでいる事柄を確認し、見えない事実を確認することです。”“信仰がなければ、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神が存在しておられること、また、神は御自分を求める者たちに報いてくださる方であることを、信じていなければならないからです。”（[新]、pp. 414-415）

強い信仰は、人間を肉体的にも、精神的にも不屈にします。“魂の津波”に直面する時、私たちは、私たちを引っ張って通り抜けさせてくれる内なる力が必要です。私たちは主に頼ることができます。何故なら主は“烈しい風と嵐を避け、急いで身を隠すことができる”場所であるからです。（詩編55:9、[旧]、p. 888）そして神は、“弱い者の砦、苦難に遭う貧しい者の砦、豪雨を逃れる避け所、暑さを避ける陰”であります。（イザヤ書25:4、[旧]、p. 1098）

私たちが強い信仰を持っていれば、“魂の津波”に立ち向かう第二番目の指針である自分の力ではなく主に依り頼むことを、必然的に覚えていることでしょう。預言者ヨナが、生と死の苦難に遭った時、やがて神に助けを求めました。

旧約聖書ヨナ書2:2-3（[旧]p. 1446）に詳しく語られています。“ヨナは魚の腹の中から自分の神、主に祈りをささげて、言った。苦難の中で、私が叫ぶと、主は答えてくださった。陰府の底から、助けを求めると、わたしの声を聞いてくださった。”

私たちの間では、実際の嵐の中、船が転覆したあげく、巨大な魚に飲み込まれてしまったというヨナより厳しい立場に置かれた人はいないと思います。地中海の真ん中ということも生き残れる希望が全くないように思われます。しかし、ヨナが自分の罪を悔い改め、心から主に祈った時、神は彼の祈りを聞き、祈りに答えてくださいました。このことから、私たちが何処にいようと、また、立場がどんなに厳しく思われても、神は私たちに耳を傾けてくださることを知るでしょう。ですから、祈ることもできないほどの苦境の時こそ、一心に祈らなければならないのです。当然、神の言葉を知っているということは、人生の嵐の中では欠くことのできないことです。

最も良い例の一つとしてあげられるのは、四十日四十夜荒れ野で断食の祈りをしておられたイエスの姿でしょう。飢えで肉体的に弱くなったイエスに、サタンがイエスを誘惑した時、イエスは“魂の

津波”を経験されました。マタイによる福音書 4:1-11 ([新]、pp. 4-5)に、サタンは三度イエスを誘惑しました。そして、イエスはその三度とも旧約聖書から引用して答えられたのです。(申命記6:13, 6:16, 8:3 です。)

もしイエスが私たちのお手本であるならば、私たちも人生の嵐に出合う時、聖書に帰ることです。しかし、これは嵐に出合った後ではなく、嵐の前に毎日私たちが忠実にこつこつと聖書を勉強することが必要なのです。

そして、“魂の津波”に遭った時、覚えておくもう一つの大切な第四の指針は、神に感謝を捧げることです。困難を神に感謝することは逆説的ですが、これが私たちの、実に、しなければならない一つなのです。ヘブライ人への手紙12:11に書かれていることに気付くからです。“およそ鍛練というものは、当座は喜ばしいものではなく、悲しいものと思われるのですが、後になるとそれで鍛え上げられた人々に、義という平和に満ちた実を結ばせるのです。”

イエスの十字架の刑の前夜の最後の晩餐の時、イエスは、24時間以内に死ぬことを知りながらも神に感謝を捧げました。(マタイによる福音書26:27、([新]、p. 53)

実にパウロはフィリピの信徒への手紙4:6-7 ([新]、p. 366) で、信徒たちにこう熱心に勧めています。“どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。そうすれば、あらゆる人知を超える神の平和が、あなたがたの心と考えとをキリスト・イエスによって守るでしょう。”

最後に、私たちが“魂の津波”に直面する時、私たちは決してあきらめないことを決心しなくてはなりません。

決してあきらめない精神は、ヤコブの手紙 1:2-4の中でこう嘆願しています。“わたしの兄弟たち、いろいろな試練に出会うときは、この上ない喜びと思いなさい。信仰が試されることで忍耐が生じると、あなたがたは知っています。あくまでも忍耐しなさい。そうすれば、完全で申し分なく、何一つ欠けたところのない人になります。

もし私たちに主への信仰があり、純粋な祈りをもって神を求め、聖書の中に自分自身を没頭し、すべてのことを神に感謝し、決してあきらめなければ、私たちは人生の嵐をひとつひとつ乗り越えて行けると確信するものであります。ですから“魂の津波”によって、私たちは強められてゆくという意味を心から理解できることでしょう。

今日のテーマに深く関係ある、私の好きな詩があります。これは、150年前のアメリカの南北戦争で負けた南軍の兵士によって書かれた詩です。

苦しんでいる人たちのために

わたしは神に強さを求めた、目的を達するために。
わたしは弱くさせられた、謙虚に従うことを学ぶために。

わたしは健康を求めた、偉大なことをするために。
わたしは病を与えられた、より善いことをするために。

わたしは富を求めた、幸せであるために。
わたしは貧困を与えられた、賢明であるために。

わたしは力を求めた、人々の称賛を得るために。
わたしは弱さを与えられた、神の必要を感じるために。

わたしはすべての物を求めた、人生を楽しむために。
わたしは命を与えられた、すべてのことを喜ぶために。

わたしが求めたことはなにも与えられず。しかし、希望した
物はすべて得た。わたし自身間違っていたにもかかわらず、
わたしの祈りは正しく答えられた。

わたしは人の中で、もっとも豊かに祝福されている。

南北戦争に於ける南軍無名兵士による詩 (ca.1865)

もし、魂の津波のような苦しみがある時、この詩を思い出してください。

2016年10月11日 聖学院大学 全学礼拝(シリーズ礼拝)